

日本語と中国語の指示詞に関する一考察：対訳小説 を中心に

趙, 天寧
九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻

<https://doi.org/10.15017/1806671>

出版情報：地球社会統合科学研究. 6, pp.69-81, 2017-02-28. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

日本語と中国語の指示詞に関する一考察

—対訳小説を中心に—

チョウ
趙

テン ネイ
天 寧

はじめに

趙 (2016) は、日中・中日の対訳小説作品を対象にして、用例を集め、日中・中日の対訳ができる指示詞とできない指示詞を分類、分析し、文法的な理由を考察した。日中対訳小説は、日本の作家である村上春樹の『1Q84』BOOK1の日本語版と中国大陸版(施小偉訳)を使用し、中日対訳小説は、中国の作家である莫言の『蛙鳴』の中国語版と日本語版(吉田富夫訳)を使用した。しかし、『1Q84』BOOK1の日本語版と中国大陸版はデジタル化されているが、一方莫言の『蛙鳴』はデジタル化されていないため、趙(2016)ではランダムに用例を抽出してそれぞれの指示詞の翻訳傾向を調査、分類、分析することしかできなかった。具体的に述べると、調査対象の指示詞の中で多く使われるものはどれがどれに(例えば、「那」系の指示詞はどれが「ソ」系に、どれが「ア」系の指示詞に、「ソ」系の指示詞はどの「這」系の指示詞に)翻訳されたかを細かく分析できなかった。そのため、

莫言の『蛙鳴』の日本語版をデジタル化して、『1Q84』BOOK1とともに調査対象の日中指示詞が使用された用例を増やして、焦点を絞って再分析し、それぞれの指示詞がどのように翻訳されたかを考察した。

この論文の構成は以下の通りである。

1. 指示詞の調査範囲
2. 指示詞の再分析
 2. 1 日中対訳小説の指示詞の使用状況
 2. 2 調査の結果と再分析の焦点
 2. 3 焦点の指示詞の再分析
3. 終わり

1. 指示詞の調査範囲

本研究では『1Q84』BOOK1の原作と中国語版および『蛙』の原作と日本語版から用例を集める。また、調査対象の指示詞の範囲を次の表1のように限定する。

表1 指示詞の調査範囲

日 本 語			中 国 語	
コ系	ソ系	ア系	這系	那系
これ	それ	あれ	這	那
この	その	あの	這個	那個
ここ	そこ	あそこ	這里	那里

2. 指示詞の再分析

2. 1 日中対訳小説の指示詞の使用状況

調査対象の指示詞を数えた結果をまとめると、表2と表3のようになる。

表2 『1Q84』BOOK1の日中指示詞の使用状況

日本語原作 (2779例)	コ系 (563例) 20%		これ	122例
			この	309例
			ここ	132例
	(2216例) 80%	ソ系 (2150例) 78%	それ	828例
			その	1059例
			そこ	263例
		ア系 (61例) 2%	あれ	18例
			あの	33例
			あそこ	10例
中国語翻訳 (2250例)	這系 (1415例) 63%		這	938例
			這個	346例
			這里	131例
	那系 (835例) 37%		那	593例
			那個	151例
			那里	91例

表3 『蛙鳴』の中日指示詞の使用状況

中国語原作 (1861例)	這系 (804例) 43%		這	579例
			這個	158例
			這里	67例
	那系 (1057例) 57%		那	922例
			那個	104例
			那里	31例
日本語翻訳 (1689例)	コ系 (521例) 31%		これ	105例
			この	335例
			ここ	81例
	(1168例) 69%	ソ系 (766例) 45%	それ	181例
			その	513例
			そこ	72例
		ア系 (402例) 24%	あれ	172例
			あの	221例
			あそこ	9例

表2は『1Q84』BOOK1の原作と中国語翻訳における指示詞の使用状況である。原作に出現した限定の「コ」系の指示詞は563例、「ソ」系の指示詞は2150例、「ア」系の指示詞は61例である。この調査の結果から原作で使用された指示詞のうち、「コ・ソ・ア」各系の指示詞の使用率は、「コ」系の指示詞が20%、「ソ」系の指示詞が78%、「ア」系の指示詞が2%となっている。中国語翻訳に出現した限定の「這」系の指示詞は1415例、「那」系の指示詞は835例であり、「這・那」両系列の指示詞の

使用率は63%と37%となっている。

表3は『蛙鳴』の原作と日本語翻訳における指示詞の使用状況である。原作に出現した限定の「這」系の指示詞は804例、「那」系の指示詞は1057例であり、その使用率は「這」系が43%、「那」系が57%となっている。日本語翻訳の指示詞状況は、「コ」系521例、「ソ」系766例、「ア」系402例となり、使用率は「コ」系31%、「ソ」系45%、「ア」系24%である。

図で表すと、下の図1のようになる。

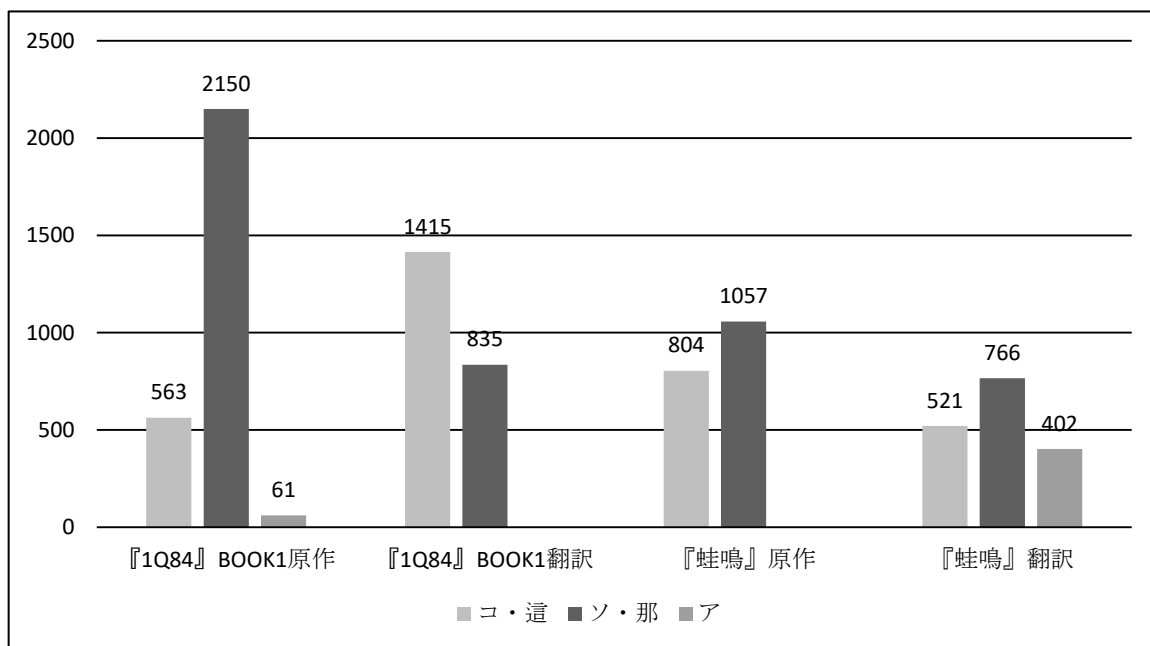


図1 調査対象の指示詞の使用状況

2. 2 調査の結果と再分析の焦点

2. 2. 1 調査の結果

調査対象の指示詞の使用を調査した結果、以下のような点が確認できた。

『1Q84』BOOK1の原作では、「コ・ソ・ア」各系の指示詞の使用状況は、「コ」系の指示詞が20%、「ソ」系の指示詞が78%、「ア」系の指示詞が2%であり、「ソ」系の指示詞の使用は統計的有意に多いと言える。翻訳では、「這・那」両系列の指示詞の使用率は、「這」系の指示詞が63%、「那」系の指示詞が37%であり、「那」系の指示詞より「這」系の指示詞の使用が統計的有意に多い結果となった。

『蛙鳴』の原作では、「這・那」両系列の指示詞の使用率は、「這」系の指示詞が43%、「那」系の指示詞が57%であり、「這」系の指示詞より「那」系の指示詞の使用は統計的有意に多いと言える。翻訳では、「コ・ソ・ア」各系の指示詞の使用率は、「コ」系の指示詞が31%、「ソ」系の指示詞が45%、「ア」系の指示詞が24%であり、「コ・

ア」系の指示詞より「ソ」系の指示詞の使用が統計的有意に多い結果となった。

統計の結果を利用して、研究対象の小説の原作と翻訳で使用されている調査対象の指示詞の合計数を見ると、『1Q84』BOOK1の原作は2779例、中国語翻訳は2250例が使用されており、『蛙鳴』の原作は1861例、日本語翻訳は1689例が使用されている。つまり、どちらも原作の方が指示詞の使用が多いことがわかった。

以上のことを次のようにまとめることができる。

①『1Q84』BOOK1—原作では遠指「ソ」系の指示詞、翻訳では近指「這」系の指示詞が多く使用されている。

②『蛙鳴』—原作では遠指「那」系の指示詞、翻訳では遠指「ソ」系の指示詞が多く使用されている。(原作:「這」804例、「那」1057例。翻訳:「コ」521例、「ソ」766例、「ア」402例。)

③日本語小説と中国語小説のどちらの場合も原作の方が調査対象となっている指示詞の使用が多い。

2. 2. 2 再分析の焦点

調査対象の指示詞を調査した結果によって、以下のよ
うな指示詞の使用傾向に焦点を置き、再分析を行う。

① 『1Q84』BOOK1原作の遠指の指示詞「ソ」の 翻訳状況。

表4が示しているように、『1Q84』BOOK1原作では
遠指「ソ・ア」系の指示詞は2211例、近指「コ」系の指
示詞は563例使われ、遠指の指示詞が多く使用されてい
る。また、遠指の指示詞のうち、「ア」系の指示詞は61

例、「ソ」系の指示詞は2150例が使われている。そこで、
数が一番多い「ソ」系の指示詞がどのように翻訳された
かについて調べたい。

② 『蛙鳴』原作の近指の指示詞「這」翻訳状況。

『蛙鳴』原作では遠指「那」系の指示詞が1057例使われ、
翻訳では遠指「ソ・ア」系の指示詞が1168例使われている。
それに対して、原作では近指「這」系の指示詞が804例
であるのに対し、翻訳では近指「コ」の指示詞は521例
しか使われていない。そこで、近指「這」系の指示詞が
どのように翻訳されたかについて調べたい。

表4 「遠・近」別の指示詞の使用傾向

対象 系	『1Q84』BOOK1		『蛙鳴』		
	原 作	翻 訳	原 作	翻 訳	
近指	コ 563例		這 804例	コ 521例	
遠指	2211例		那 1057例	1168例	
	ソ 2150例	ア 61例		ソ 766例	ア 402例

2. 3 焦点の指示詞への再分析

『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞の「それ」「そ
の」「そこ」と『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞の「這」
「這个」「這里」を用いた用例を分類し、それぞれの指示
詞がどのように翻訳されたかを分析した。分析した結果
から、両原作の「それ」「その」「そこ」と「這」「這个」
「這里」が翻訳版で翻訳されたことは主に「近指」「遠
指」「訳さない」「その他」の四つのパターンに分類する
ことができる。

2. 3. 1 『1Q84』BOOK1原作の遠指の指示詞「ソ」 の分析

「ソ」系の指示詞の翻訳状況を見てみると、翻訳では
「ソ」系の指示詞は2150例あり、23%（505例）が中国語
の「近指」の「這」系の指示詞に、24%（507例）が中
国語の「遠指」の「那」系の指示詞に、39%（838例）
が訳されず、14%（300例）が中国語のその他のことば
に訳された。

また、「ソ」系の指示詞「それ」「その」「そこ」の翻
訳状況は次のようになっている。

表5 『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞の翻訳状況

対象 系	指示詞	翻訳状況	
		例数	割合
ソ系 (2150例)	それ (828例)	近指	這 220例 (27%)
		遠指	那 140例 (17%)
		訳さない	312例 (37%)
		その他	156例 (19%)
	その (1059例)	近指	這 261例 (25%)
		遠指	那 288例 (27%)
		訳さない	390例 (37%)
		その他	120例 (11%)
	そこ (263例)	近指	這 24例 (9%)
		遠指	那 79例 (30%)
		訳さない	136例 (52%)
		その他	24例 (9%)

「ソ」系の指示詞の中に、訳さない指示詞 39%（838例）、遠指に訳された指示詞 24%（507例）、近指に訳された指
示詞 23%（505例）、その他に訳された指示詞 14%（300例）。

「それ」—原作では828例が使われている。翻訳では、中国語の近指の「這」系の指示詞に訳された例が220例（27%）、遠指の「那」系の指示詞に訳された例が140例（17%）、訳されなかった例が312例（37%）、中国語のその他のことばに訳された例が156例（19%）である。

「その」—原作では1059例が使われている。翻訳では、中国語の近指の「這」系の指示詞に訳された例が261例（25%）、遠指の「那」系の指示詞に訳された例が288例（27%）、訳されなかった例が390例（37%）、中国語のその他のことばに訳された例が120例（11%）である。

「そこ」—原作では263例が使われている。翻訳では、中国語の近指の「這」系の指示詞に訳された例が24例（9%）、遠指の「那」系の指示詞に訳された例が79例（30%）、訳されなかった例が136例（52%）、中国語のその他のことばに訳された例が24例（9%）である。

以上の結果をまとめると表5になる。

図2-1は『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞の翻訳状況を、図2-2は「それ」「その」「そこ」のそれぞれの翻訳状況を表している。

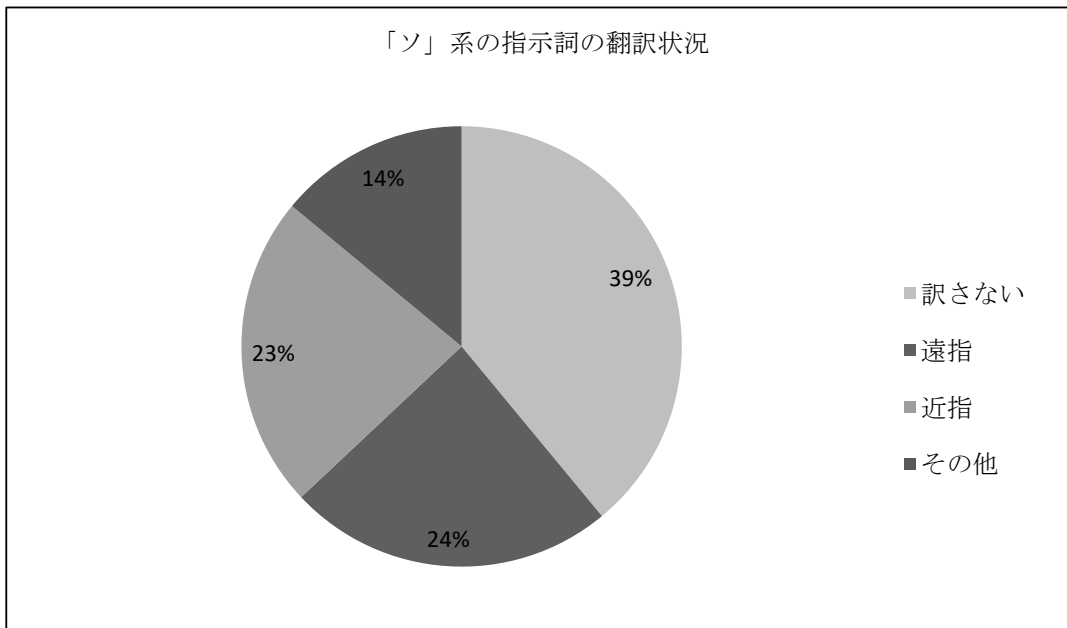


図2-1 『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞の翻訳状況

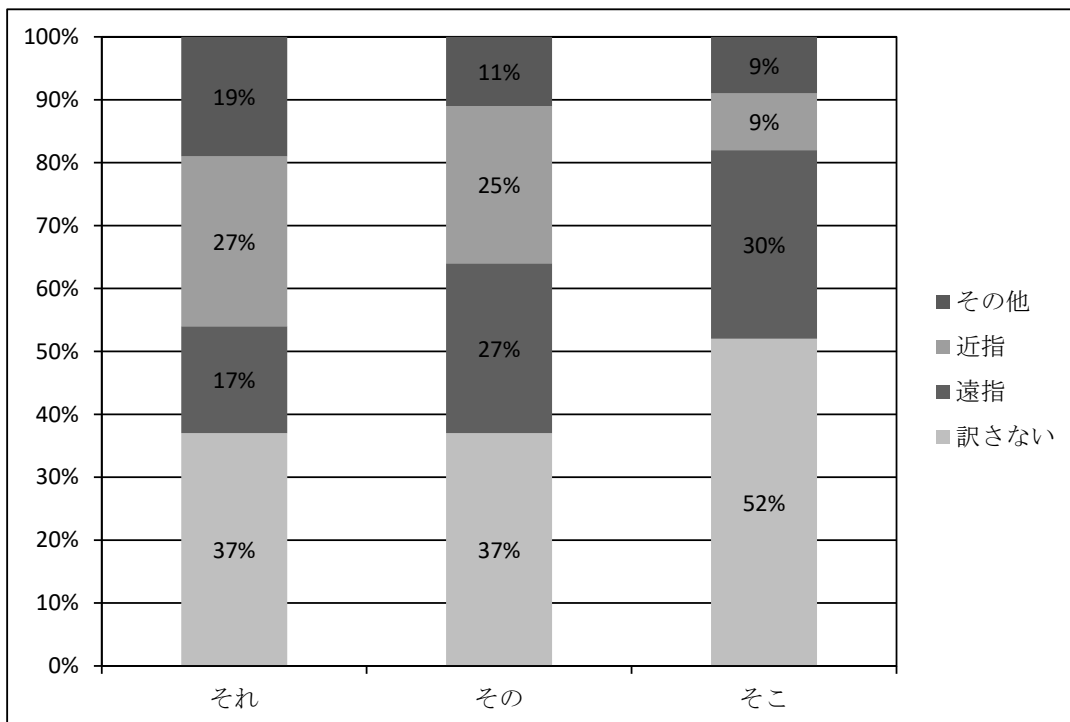


図2-2 「それ」「その」「そこ」の翻訳状況

2. 3. 2 『蛙鳴』原作の近指の指示詞「這」の分析

「這」系の指示詞の翻訳状況を見てみると、翻訳では「這」系の指示詞が804例あり、28% (226例)が日本語の「近指」の「コ」系の指示詞に、19%が日本語の「遠指」の「ソ」(79%) (120例)・「ア」(21%) (31例)系の指示詞に、42% (336例)が訳されず、11% (91例)が日本語のその他のことばに訳された。

また、「這」系の指示詞「這」「這個」「這裡」の翻訳状況は次のようになっている。

「這」—原作では579例が使われている。翻訳では、日本語の近指の「コ」系の指示詞に訳された例が130例(22%)、遠指の「ソ」系の指示詞に訳された例が93例(16%)、「ア」系の指示詞に訳された例が15例(3%)、訳されなかった例が279例(48%)、日本語のその他のこ

とばに訳された例が62例(11%)である。

「這個」—原作では158例が使われている。翻訳では、日本語の近指の「コ」系の指示詞に訳された例が52例(33%)、遠指の「ソ」系の指示詞に訳された例が25例(16%)、「ア」系の指示詞に訳された例が10例(16%)、訳されなかった例が52例(33%)、日本語のその他のことばに訳された例が15例(9%)である。

「這裡」—原作では67例が使われている。翻訳では、日本語の近指の「コ」系の指示詞に訳された例が44例(66%)、遠指の「ソ」系の指示詞に訳された例が2例(3%)、「ア」系の指示詞に訳された例は見られず、訳されなかった例が7例(10%)、日本語のその他のことばに訳された例が14例(21%)である。

以上の結果をまとめると下の表6になる。

表6 『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞の翻訳状況

這 (804例)	這 (579例)	訳さない	279例(48%)
		近指	コ 130例(22%)
		遠指	ソ 93例(16%)
		その他	62例(11%)
		遠指	ア 15例(3%)
	這個 (158例)	近指	コ 52例(33%)
		訳さない	50例(32%)
		遠指	ソ 25例(16%)
		遠指	ア 16例(10%)
		その他	15例(9%)
	這裡 (67例)	近指	コ 44例(66%)
		その他	14例(21%)
		訳さない	7例(10%)
遠指		ソ 2例(3%)	
遠指		ア 0例	
「這」系の指示詞の中に、訳さない指示詞 42% (336例)、近指に訳された指示詞 28% (226例)、遠指に訳された指示詞 19% (ソ 79% (120例)・ア 21% (31例))、その他に訳された指示詞 11% (91例)。			

図3-1は『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞の翻訳状況を、図3-2は「這」「這個」「這裡」それぞれの翻訳状況を表している。

2. 3. 3 焦点の指示詞を分析した結果

『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞と『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞の翻訳状況を分析した結果、以下のようなことが確認できる。

(1) 「近指」「遠指」「訳さない」「その他」の四つのパターンの翻訳状況。

『1Q84』BOOK1の「ソ」系の指示詞は訳されなかつ

た例が838例39%、遠指に訳された例が507例24%、近指に訳された例が505例23%、その他に訳された例が300例14%である。

『蛙鳴』の「這」系の指示詞は訳されなかった例が336例42%、近指に訳された例が226例28%、遠指に訳された例が151例19% (ソ120例79%・ア31例21%)、その他の語に訳された例が91例11%である。

(2) 調査対象の指示詞の中で「訳されない」パターンがもっとも多い。

『1Q84』BOOK1では「ソ」系の指示詞は39%、『蛙鳴』では「這」系の指示詞は42%が訳されなかった。調査対

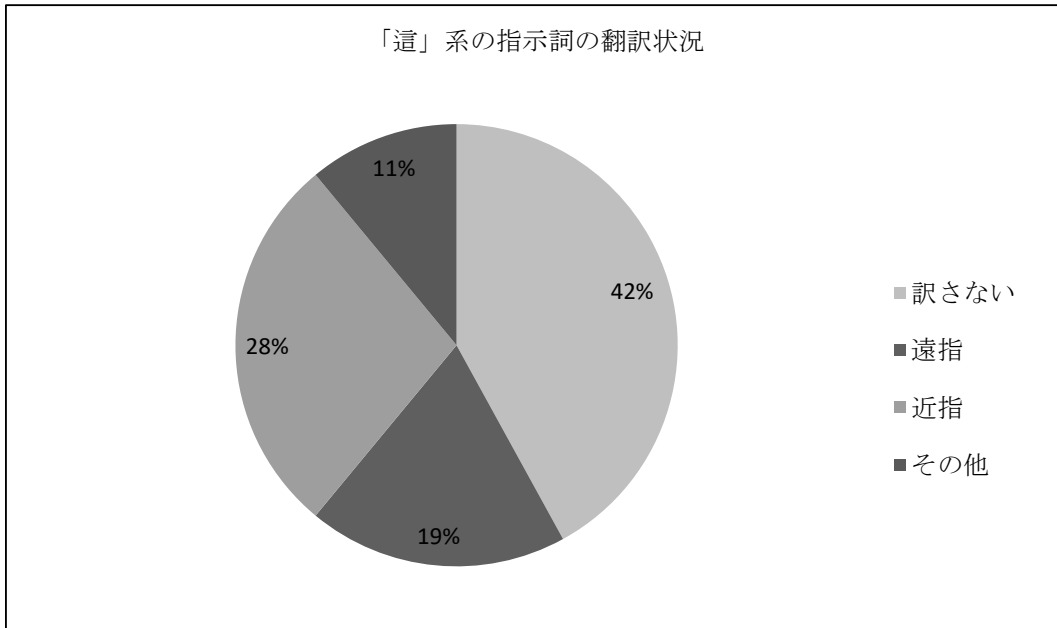


図3-1 『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞の翻訳状況

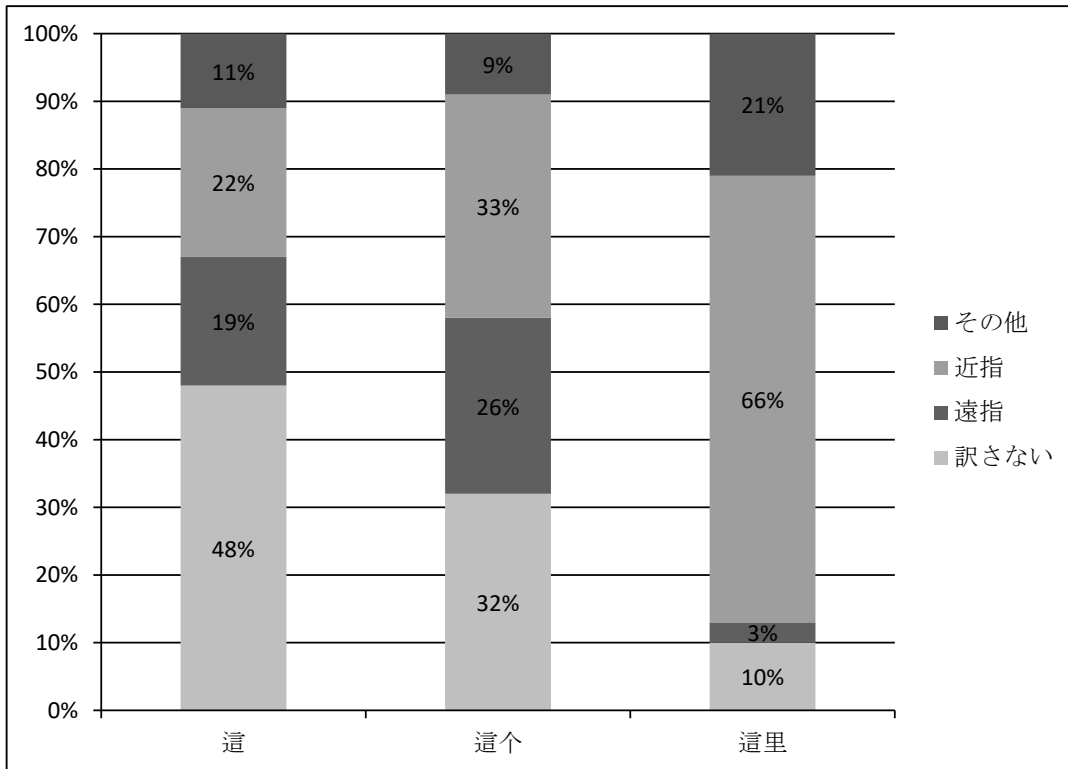


図3-2 「這」「這個」「這裡」の翻訳状況

象にした指示詞の中で、「這裡」と「這個」以外に、「それ」・「その」・「あれ」・「這」どちらも翻訳では「訳さない」例が多い。訳されなかった指示詞は、以下の四種類に分類できる。

a) 省略する

例：原文：火災は地上近くに燃え広がり、更に十人がそこで命を落とした。

訳文：火災蔓延至地表附近，又有十人被夺去性命。

b) 非指示形式語を代用する（該当名詞）

例：原文：…自分の非礼を詫びた。あのときに口にしたことはみんな忘れてほしいと言った。

訳文：……为自己的失礼道歉。我当时说的话请你统统忘掉。

c) 人称代名詞を代用する

例：原文：「あの人は何も言わない。俺の報告を聞いてただ肯くだけだ」

訳文：“她什么也没说。听了我的汇报只是点头。”

d) 意識する

例：原文：「そうかもしれない」、先生はここにはいない他人のことを話すときのように、遠くを眺めながら言った。

訳文：“也许吧。”老师好像在谈论无关的他人，眺望着远方，说，“不管怎么说，早已是过去的事了。”

(3) 指示詞別から見る「近指」と「遠指」への翻訳状況。

① 『1Q84』BOOK1原作

調査対象の「ソ」系の指示詞は、中国語の遠指の「那」系の指示詞に訳された例が507例24%、近指の「這」系の指示詞に訳された例が505例23%であり、差は小さいが統計的有意の差があると言える。(図2-1参考)

指示詞別に見ると、次のようになっている。

それ(828例) — 「這」系の指示詞「這」に訳された例が190例(23%)、「這個」に訳された例が30例(4%)である。「那」系の指示詞「那」に訳された例が135例(16%)、「那个」に訳された例が5例(1%)である。

その(1059例) — 「這」系の指示詞「這」に訳された例が178例(17%)、「這個」に訳された例が83例(8%)である。「那」系の指示詞「那」に訳された例が213例(20%)、「那个」に訳された例が75例(7%)である。

そこ(263例) — 「這」系の指示詞に訳された24例はすべて「這里」に訳され、「這兒」には訳されなかった。また、「那」系の指示詞「那里」に訳された例が70例(27%)、「那兒」に訳された例が9例(3%)である。

以上の結果をまとめると表7になる。

表7 指示詞別から見る『1Q84』BOOK1原作の「近指」「遠指」の翻訳状況

ソ系 (2150例)	それ (828例)	近指	遠指	這	這個	那	那个
		這 220 (27%)	那 140 (17%)	190例 (23%)	30例 (4%)	135例 (16%)	5例 (1%)
その (1059例)	その (1059例)	遠指	近指	那	那个	這	這個
		那 288 (27%)	這 261 (25%)	213例 (20%)	75例 (7%)	178例 (17%)	83例 (8%)
そこ (263例)	そこ (263例)	遠指	近指	那里	那兒	這里	這兒
		那 79 (30%)	這 24 (9%)	70例 (27%)	9例 (3%)	24例 (9%)	0例

図4-1 「それ」「その」の翻訳状況

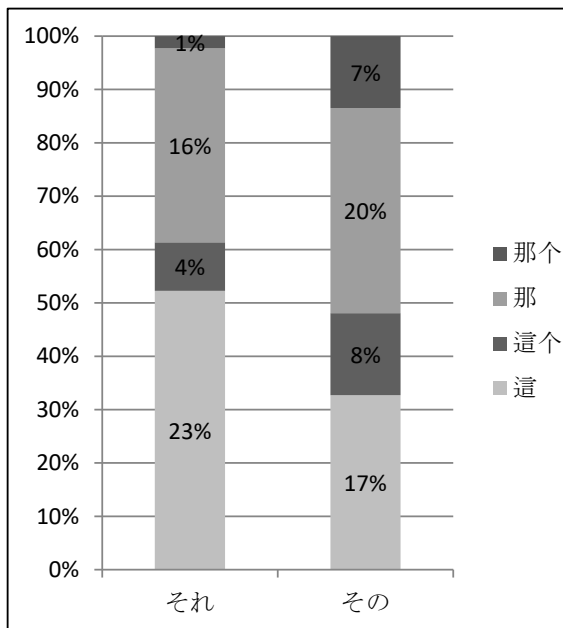


図4-2 「そこ」の翻訳状況

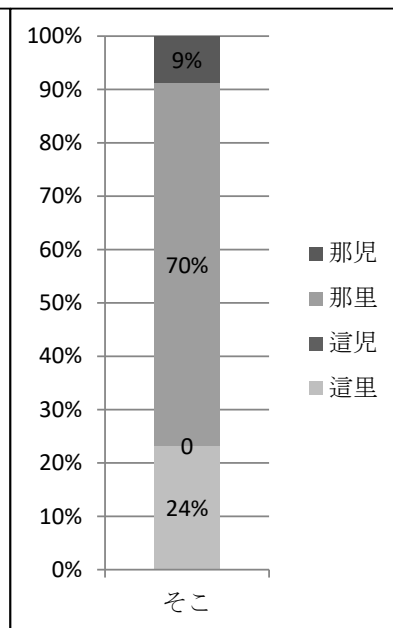


図4-1と図4-2は『1Q84』BOOK1原作の「それ」「その」と「そこ」それぞれが「這」「這个」「那」「那个」と「這里」「這兒」「那里」「那兒」に訳される状況を表している。

図4-1から以下のことを言える。

それ—27%が近指の指示詞「這」「這个」に訳され、17%が遠指の指示詞「那」「那个」に訳された。また、近指の指示詞への翻訳例では、「這个」よりも「這」に訳された例が多い。遠指の指示詞の翻訳例は「那个」よりも「那」に訳された例が多い。

その—27%が遠指の指示詞「那」「那个」に訳され、25%が近指の指示詞「這」「這个」に訳された。また、遠指の指示詞への翻訳例は、「那个」よりも「那」の方が多。近指の指示詞への翻訳例は「這个」よりも「這」の方が多。

また、図4-2を見ると、

そこ—30%が遠指の指示詞「那里」「那兒」に訳され、そのうちの70%が「那里」に訳され、11%しか口語の「那兒」に訳されなかった。残りの？24%はすべて近指の指示詞「這里」に訳され、「這兒」に訳される例はなかった。

② 『蛙鳴』原作

調査対象の「這」系の指示詞は、日本語の近指の「コ」

系の指示詞に訳された例が226例28%、遠指「ソ120例・ア31例」系の指示詞に訳された例が151例19%であり、統計的有意の差が見られる(図3-1参考)。

指示詞別に見ると、次のようになっている。

這 (579例)—「コ」系の指示詞「これ」に訳された例が39例(7%)、「この」に訳された例が91例(16%)である。「ソ」系の指示詞「それ」に訳された例が10例(2%)、「その」に訳された例が83例(14%)である。「ア」系の指示詞「あれ」に訳された例が3例(1%)、「あの」に訳された例が12例(2%)である。

這个 (158例)—「コ」系の指示詞「これ」に訳された例が3例(2%)、「この」に訳された例が49例(31%)である。「ソ」系の指示詞「それ」に訳された例が4例(3%)、「その」に訳された例が21例(13%)である。「ア」系の指示詞「あれ」に訳された例が1例(1%)、「あの」に訳された例が15例(9%)である。

這里 (67例)—「コ」系の指示詞「ここ」に訳された例が43例(64%)、「こっち」に訳された例が1例(1%)である。また、「ソ」系の指示詞「そこ」に訳された例が2例(3%)である。「ソ」系の「そっち」と「ア」系の「あそこ」「あっち」に訳された例はなかった。

以上の結果をまとめると表8になる。

表8 指示詞別から見る『蛙鳴』原作の「近指」「遠指」の翻訳状況

指示詞	例数	近指	遠指	近指		遠指			
				コ	ソ	ア	その他		
這 (579例)		近指	コ 130例 (22%)	これ	39例 (7%)	遠指	ソ 93例 (16%)	この	91例 (15%)
				その	10例 (2%)		ア 15例 (3%)	その	83例 (14%)
		遠指	ソ 93例 (16%)	あれ	3例 (1%)	ア 15例 (3%)	あの	12例 (2%)	
				この	49例 (31%)				
				それ	4例 (3%)				
				その	21例 (13%)				
這个 (158例)		近指	コ 52例 (33%)	これ	3例 (2%)	遠指	ソ 25例 (16%)	この	49例 (31%)
				その	4例 (3%)		ア 16例 (10%)	その	21例 (13%)
		遠指	ソ 25例 (16%)	あれ	1例 (1%)	ア 16例 (10%)	あの	15例 (9%)	
				この	49例 (31%)				
				それ	4例 (3%)				
				その	21例 (13%)				
這里 (67例)		近指	コ 44例 (66%)	ここ	43例 (64%)	遠指	ソ 2例 (3%)	そこ	2例 (3%)
				こっち	1例 (1%)		そっち	0例	
		遠指	ソ 2例 (3%)	あそこ	0例	ア 0例	あっち	0例	
				あそこ	0例				
				あっち	0例				
				あっち	0例				

図5-1 「這」「這個」の翻訳状況

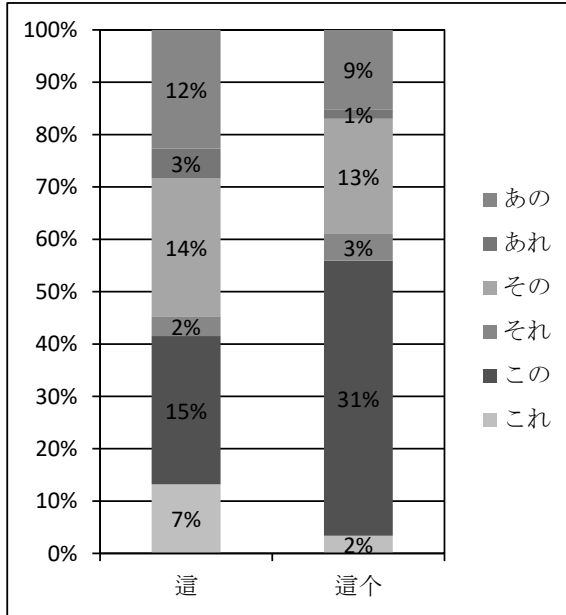


図5-2 「這里」の翻訳状況

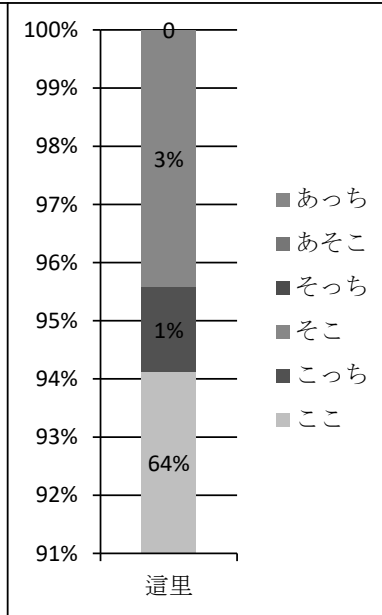


図5-1と図5-2は『蛙鳴』原作の「這」「這個」と「這里」それぞれが「これ」「この」「それ」「その」と「ここ」「こっち」「そこ」「そっち」「あそこ」「あっち」に訳される状況を表している。

図5-1を見ると、

這—22%が近指の指示詞「これ」「この」に訳され、「これ」よりも「この」に訳された例が多い。また、19%が遠指の指示詞に訳され、ソ系の「それ」「その」が16%、ア系の「あれ」「あの」が3%しかなかった。ソ系とア系は「それ」「あれ」よりも「その」「あの」に訳された例が多い。

這個—52%が近指の指示詞「これ」「この」に訳され、「これ」よりも「この」に訳された例が多い。また、26%が遠指の指示詞に訳され、ソ系の「それ」「その」が16%、ア系の「あれ」「あの」が10%である。ソ系とア系の指示詞への翻訳では、「それ」「あれ」よりも「そ

の」「あの」に訳された例が多い。

また、図5-2を見ると、

這里—66%が近指の指示詞「ここ」に訳された。そのうち「こっち」に訳された1例がある。遠指の指示詞に訳された例はソ系の「そこ」の2例しかなかった。

(4) 原作の指示詞の「その他」のことばへの翻訳状況。

『1Q84』BOOK1の原作では、調査対象の「ソ」系の指示詞14%が、『蛙鳴』の原作では調査対象の「這」系の指示詞11%が名詞、代名詞、連語などのような指示詞以外のことばに訳された。どちらも四つのパターンの中でもっとも少なく訳された例である。

① 『1Q84』BOOK1原作

「それ」「その」「そこ」の「その他」のことばへの翻訳状況を表9にまとめた。

表9 『1Q84』BOOK1原作の「それ」「その」「そこ」の「その他」のことばへの翻訳状況

それ (828例)	156例 (19%)	它41、此22、之9、其1、名詞・代名詞・連語83
その (1059例)	120例 (11%)	当時21、当天2、每次5、此18、其18、它3、该3、后来・然后17、这些7、那些2、这样7、那样2、这种26、那种2、 名詞・代名詞・連語74
そこ (263例)	24例 (9%)	其中21・其间2・其1

それ—19%がその他のことばに訳された。その中で、もっとも多いのは名詞（「念头」「手套」「調査」「学問」など）や連語（「毫无疑问」「还有」「那么干」「这些东西」など）である。また、中国語の人間以外の事物を指し示す第三人称代名詞「它」の使用がやや多い。「此」と「之」は、中国語古代漢語の代名詞で「近指」の指示詞に当たり、現代中国語の「這」「這個」に該当するものである。「其」は、古代中国語においても現代中国語においても第三人称代名詞と第三人称所属関係を表す代名詞である。「他（她・它）」「他（她・它）的」あるいは「他（她・它）們」「他（她・它）們的」と同義を表す。

その—11%がその他のことばに訳されており、名詞（「没错」「记忆」「刻意」など）・連語（「然后」「她的手」「每次」「所以」など）・代名詞（「其中」「其他」「其间」「其」「此

「之」など）・などに訳された例が多く、代名詞が一番多い。他に日本語の「それから」「当時」「このような・そのような」「こんな・そんな」「その種」などのことばに当たるものも多く使用されている。ここでは、「此」「其」の使用も18例ずつ見られ、その他のことばよりやや多いと言える。

そこ—日本語の「其中」とほぼ同義であるため、21例は「其中」に、2例は「其间」に、1例は「其」に訳された。

② 『蛙鳴』原作

「這」「這個」「這裡」の「その他」のことばへの翻訳状況を表10にまとめた。

表10 『蛙鳴』原作の「這」「這個」「這裡」の「その他」のことばへの翻訳状況

這 (579例)	62例 (11%)	そんな7、こんな4、あんな1、ここ5、そこ11、こいつ15、そいつ18、あいつ1
這個 (158例)	15例 (9%)	こんな1、そんな8、あんな2、こいつ3、そいつ1
這裡 (67例)	14例 (21%)	その場2、この場1、こんなところ4、ところ3、このあたり3、この地1

這—11%がその他のことばに訳された。怒ったときや軽蔑の気持ちを表すときに使う「こいつ・そいつ」のようなことばが多く見られる。

這個—9%がその他のことばに訳されたが、軽視や軽蔑の気持ちを表す「そんな」などのことばがやや多く見られる。

這裡—21%がその他のことばに訳された。すべて場所に関する名詞に訳された。

2. 3. 2 結果のまとめ

① 「近指」「遠指」「訳さない」「その他」の四つのパターンの翻訳状況。

『1Q84』BOOK1は「近指」「遠指」「訳さない」「その他」のうち、翻訳された数が多い順に「訳さない」指示詞39%、「遠指」に訳された指示詞24%、「近指」に訳された指示詞23%、「その他」に訳された指示詞14%となっている。どちらも「訳さない」パターンが多い。

② 指示詞別から見ると、「近指」と「遠指」への翻訳状況。

『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞は、「遠指」の指示詞に訳された例が24%、「近指」の指示詞に訳さ

れた例が23%であり、差があまり見られない。また、「這個」・「那个」よりも「這」・「那」に訳された例が多い。

『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞は、「近指」に訳された例が28%、「遠指」に訳された例が19%であり、近指の方が多く、その差は大きい。また、「それ」・「あれ」よりも「その」・「あの」に訳された例が多い。

③ 原作の指示詞の「その他」のことばへの翻訳状況。

『1Q84』BOOK1原作の「ソ」系の指示詞は14%が、『蛙鳴』原作の「這」系の指示詞は11%が名詞、代名詞、連語などのような指示詞以外のことばに訳された。どちらも四つのパターンの中で訳された例としては最も少なかった。

3. 終わり

以上、日本語と中国語の指示詞について『1Q84』BOOK1の日本語版と中国大陸版、『蛙』の中国語版と日本語版を対象にして対照研究の再分析を行った。今回の分析は主に、両作品の原作と翻訳における限定した調査範囲の指示詞の使用状況と翻訳状況を確認し、特に原作と翻訳に使用される差が大きくみられる「ソ」系の指示

詞と「這」系の指示詞に焦点を置いて分析した。調査対象となった指示詞はそれぞれ具体的にどれがどれに翻訳されたかを細かく分析し、どちらの作品も翻訳では指示詞を「訳さない」例が多い傾向と、分析焦点の日本語原作の「ソ」系の指示詞は中国語翻訳では「遠指」の指示詞へ、中国語原作の「這」系の指示詞は日本語翻訳では「近指」の指示詞へ翻訳される傾向が確認できた。

これからの研究課題として、

①日本語の原作小説は、「ア」系の指示詞よりも「ソ」系の指示詞の使用比率がかなり高い。それに対して、中国語の小説の日本語訳では、「ソ」系の指示詞と「ア」系の指示詞の使用比率の差は小さい。その原因は何か。

②どんな指示詞が「它」に翻訳されたか。

③会話における日中指示詞の翻訳のされ方や使用状況はどうなっているか。
などが考えられる。

参考文献

- 『1Q84』BOOK1 (2010)
『蛙鳴』(2011) 莫言(著) 吉田富夫(訳) 中央公論
新社 デジタル化版
趙 天寧(2016)「日本語と中国語の指示詞についての
対照研究—対訳小説を中心に」
九州大学大学院 地球社会統合科学府
<http://jp.hjenglish.com/dl/p11793/> 江戸日語資料庫
日本語電子書

A Study about Japanese and Chinese Demonstratives Focus on Parallel Translation Novels

Zhao TianNing

Abstract

趙(2016)collected examples of demonstratives from the Japanese-language and Chinese-language versions of “1Q84 BOOK1” and “蛙鳴”, drew a distinction between the translatable and untranslatable, and then provided an analysis.

Japanese-language and Chinese-language versions of “1Q84 BOOK1” have already been digitalized. However, this is not the case with “蛙鳴” written by莫言. Therefore, 趙(2016)extracted examples at random from the text, formed statistics for the trends of each demonstrative, before simply classifying and examining them. It was not possible to analyze in fine detail how each demonstrative was translated among the many used.

For the aforementioned reasons, I digitized the Japanese version of “蛙鳴” in this paper, in order to find more examples of demonstratives being used. I then re-analyzed them with applied focus and assessed how they were translated.